甲斐の金山から　平成16年3月31日　第28号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

有料入館者12万人達成！

～15年度月別入館者、前年を上回る～

３月第１週目の日曜日、８日の午前中、当館では有料入館者12万人目を達成することが出来ました。この12万人目に巡り当たった方は県内・南アルプス市在住の飯野清徳さん。

飯野さんは、南アルプス市地区の生涯学習の一環で、年に一度の研修会である「移動教室」の参加者の一人として当館に来館されました。参加者30人に、移動教室事務局からチケットが手渡され、すべての人に行き渡ったところで、谷口館長から、この中に12万人目の有料入館者がいることを告げられ、「120000」のナンバーが打刻されたチケットを持っていたのが飯野さんだったというわけです。

飯野さんは仲間達に「すごいじゃん」「いいねえ」とはやされながらの授与となり、「びっくりした」と言いながらも嬉しそうな表情を見せてくれました。

平成12年度以降、右肩上りで有料入館者増が続き、また予想よりも随分速いペースで12万人達成のニュースをお知らせ出来たことは博物館関係者にとって、来年度に向けて大きな励みとなりました。

世界遺産に「産業遺産」

湯之奥金山など『黄金の国ジパング』登録への可能性

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長　谷　口　一　夫

スタートは「下部町の活性化」を考えた運動

下部町の活性化を考えた「湯之奥金山遺跡」の世界遺産登録の運動は、金山博物館友の会メンバーが中心となった民間レベルの運動から、東日本にある金山遺跡を、一つの括りで捉えた『黄金の国ジパング』としての世界遺産登録運動へと、新しい段階を迎えました。

日本における鉱山は、古来から西国の銀、東国の金と言われますように、西日本に石見銀山、生野銀山などの銀山があり、東日本には広域的に陸奥金山、甲斐金山、佐渡金山などがあります。それぞれの金山には固有の歴史がありますが、大きくは「生産遺跡」としての「技術史」的な流れの中で把握されます。

日本の産金史は宮城県涌谷に始まります

産金の始まりは、８世紀・奈良時代の宮城県涌谷の黄金山産金遺跡（国指定史跡）にさかのぼります。陸奥金山の一画にあります涌谷で産金された金は、西暦749年（天平21）に陸奥守百済王敬福によって朝廷に献上されました。

時の聖武天皇は国分寺の建立を全国に命じ、同時に国分寺の総本山であります奈良東大寺大仏（盧舎那仏）の建造を進めていましたが、鍍金（金箔を貼って黄金色に仕上げる）に使う金が不足していた時に金が献上されたため、大いに喜び年号を天平感宝元年、同年に天平勝宝元年に改めています。

12世紀には黄金文化が開花

涌谷を含む陸奥金山遺跡からの産金は、12世紀には中尊寺金色堂（国宝・世界遺産暫定登録）を豪華に彩りました。こうした黄金文化は東方見聞録で知られるようにマルコポーロによって西洋に伝えられ「黄金の国ジパング」伝説が生み出されました。

16世紀湯之奥金山などで山金始まる

15世紀末～16世紀に入ると、それまでの砂金採掘に代わり山金山（鉱石から産金）が甲斐国（山梨県）を中心とした武田の領域内金山で始まりました。その代表的な金山が下部町の国指定史跡「湯之奥（中山）金山遺跡」と塩山市の「黒川金山遺跡」ということになります。

甲斐国（山梨）で始まった金貨の貨幣制度

金山がたくさんあった甲斐国には「金」が豊かにあり、信玄は碁石金とか蛭藻金（ひるもきん）など貨幣の原点ともいうべきものを作り、褒賞や神社などへの寄進に使われました。その碁石金は、後の日本で最初の四進法（両・分・朱・糸目）の金貨による「甲州金」と呼ばれる貨幣制度の露一両金と重量（４匁15ｇ）が近いことから、既に信玄の頭の中には貨幣制度が描かれていたともみられます。「甲州金」は武田家が滅び江戸幕府が開かれる以前、慶長時代の初期ころに始まったようです。この甲斐国の貨幣制度は江戸幕府が開かれると、江戸時代の四進法の貨幣制度（両・分・朱・文）に継承されていきます。

江戸期最大の佐渡金山、甲斐とも深い関係

17世紀以降は、江戸時代を通して日本最大の金山であった国指定史跡・佐渡金山遺跡などの顕著な産金（銀）活動がみられます。佐渡金銀山がもたらした経済効果は凄いものがあったと言えます。その江戸期の佐渡相川金山奉行所には、大久保長安を筆頭に歴代35人の甲州人が渡っていますが、甲斐金山と佐渡金銀山との深い関係をみることができます。

金銀山シンポジウム開かる

さて、平成16年２月29日には、シンポジウム『生産遺跡から探る「モノづくり」の歴史』の第１回研究集会が石和の帝京大学山梨文化財

研究所を会場に「金山・銀山の技術」と題し開催され、全国の大学、研究機関、行政機関、その他に関わる研究者200名余が参加し実りある研究会が行われました。翌30日は、参加者による甲斐黄金村・湯之奥金山博物館の見学会がありました。

日本の金・銀山の最新情報を交換

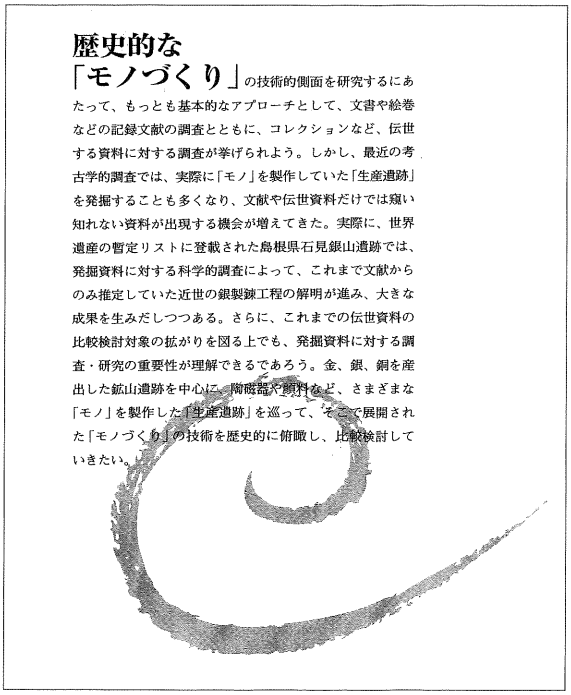
シンポジウムは、①基調講演・「生産遺跡」から学ぶもの（奈良文化財研究所主任研究官村上隆）、②特別講演Ⅰ・現代鉱業からみた近世鉱山技術（九州大学名誉教授　井澤英二）、③特別講演Ⅱ・東国の金山遺跡を巡る技術（帝京大学山梨文化財研究所長　萩原三雄）、④特別講演Ⅲ・湯之奥金山遺跡の調査研究（湯之奥金山博物館長　谷口一夫）、⑤事例報告・佐渡上相川遺跡の発掘調査（相川町佐渡金銀山課　滝川邦彦）⑥事例報告・島根県石見銀山遺跡における発掘調査（大田市教育委員会石見金銀山課中田健一）⑦事例報告・捨てられたモノから探る技術－石見銀山遺跡の事例を中心に－（村上隆）が行われた後、続いて討論が行われました。

世界遺産登録に「産業遺産」が加わる

村上隆氏は「生産遺跡」から学ものとして行った講演で「生産遺跡の定義」を『近年、国際的にも「産業遺産」という概念が重要視されてきた。2003年国際産業遺産保存会議でも、「産業遺産」を次のように定義しているとして、「産業遺産は、歴史的、技術的、社会的、建築学的、あるいは科学的価値のある産業文化の遺物から或る。これらの遺物は、建築、機械、工房、工場および製造所、炭坑および処理精錬場、倉庫や貯蔵庫、エネルギーを製造し、伝達し、消費する場所、輸送とそのすべてのインフラ、そして住宅、宗教礼拝、教育など産業に関する社会活動のために使用される場所からなる」』と解説され、こうした潮流は、世界遺産登録の「自然」「文化」「複合」に新たに「産業遺産」を加え、石見銀山についてはその登録第１号になる可能性を指摘されました。

現実味増す「黄金の国ジパング」の登録

すると東国における金山遺跡についても「産金によってもたらされた技術や歴史」は極めて深く、かつ「金」そのものがもたらした社会的影響力も計り知れず、これを総合した『東国の金山遺跡と黄金文化』のテーマのもと『黄金の国ジパング』も、湯之奥金山博物館で始まった運動が、こうした場で討論されるなど、広域的な運動の広まりが出てきました。



第１回金山・銀山の技術レジュメから

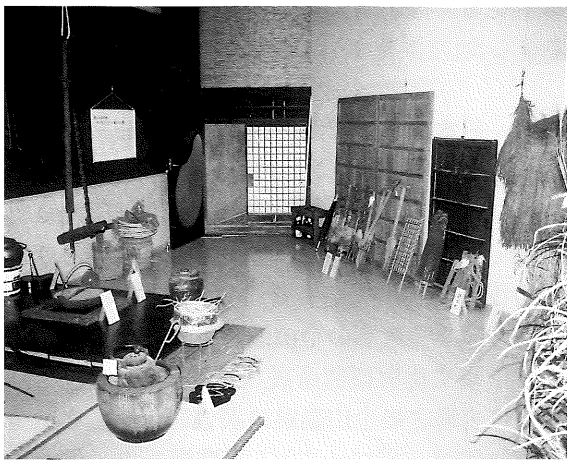
活　動　報　告

第６回特別展「少し昔のしもべの暮らし展」終了

１月20日（火）～２月13日（金）まで第６回特別展「少し昔のしもべの暮らし」展が約１箇月の展示期間を終え、好評のうちに終了いたしました。

展示品となったこれらの道具は、町内在住者がそれぞれ町に寄贈したもので、これまで旧湯町分校の校舎に保管管理されていたものでした。今回の特別展は、これらの生活道具などを使い昭和初期の生活空間を再現したもので、なんとなく心に懐かしさを抱いていただければという主旨で開催いたしました。観覧された皆さんは口々に「こんなの使ったねえ」「あ、これ家にもあったよ」と言いながら見ていた姿が多く見受けられました。

またその時代を知らない子ども達にとっても入口に取り付けたくぐり戸を開けて中に入ると、打って変わる雰囲気の中に懐かしさを感じるようで、展示物の一つである木琴やコマやヨーヨーなどを手にしたり、蚊帳の中で話し込んだりしていました。またそんな様子も合わせて御覧くださった人たちは「子供の時はあんな風に蚊帳の中でよく遊んだなあ」と懐かしみながら見てくれました。



この特別展を開催するに当たって、次の方々にも資料借用の御協力をいただきました。

後藤昭恵（大鋸、炭壺）、高岡伸五（番傘、電話）、若林　茂（自転車）、松井弘光（籾摺り、炭俵）（順不同敬称略）

どんど焼・お山飾り

お団子作りを率先してやってくれました

下部町では正月が終わった１月初旬に毎年「お山飾り」を飾る行事があります。地域の年中行事のひとつで、幟竿に色紙を巻きつけた細竹が四方に平均に垂れるようにした大きな飾りで、集落の入口に立てます。「魔除け」の行事とも言われており、柳のように枝垂れることから「柳飾り」とも呼ばれますが、作られる集落によって、色紙や形にそれぞれ特色があり、色紙を巻いた柳の様子は寒々しい冬の空によく映え、見る人の目を楽しませてくれます。

博物館でも毎年エントランスに飾りますが、このお飾りに来館者からは「あら、これなあに？」「この地域ではよく見かけるけど風習なんですか？」ということをよく聞かれます。

この時には、やはり小正月の行事の一つとして、お山飾りと同時にどんど焼きのお団子も作って飾ります。

博物館で飾るこれらは、毎年町内の小中学生が主体になって作っています。お山飾りの枝に色紙を巻きつける作業などは、上級生が下級生にアドバイスしながら作っていました。

また、お団子作りも和気あいあいとした雰囲気の中で、みんな楽しんでいました。

出来上がったお団子は丸い形だけでなく、ハートや星、うさぎや熊など様々な形がありましたが、樫の枝に刺した彩り豊かなこれらのお団子もまた、花の少ない季節に来館者の目を楽しませてくれました。

平成15年度公開講座終了

今年度全５回の公開講座ですが、１月17日（土）は、三井金属鉱業総合研究所資源研究室室長・五味篤先生による「金鶏金山の歴史と地質鉱床」というお話を頂戴しました。この日の天候は雪、それでも雪の中遠くから足を運んでくださる方々が多く見られました。五味先生は、専門の鉱床学に加え、御自身が海外勤務で経験された実際の鉱山の様子や作業の進め方など、誰が聞いても分かるように用語解説を加えながらお話ししてくださいました。

聴講者からも「分かりやすかった」「現在の鉱山での稼動がどのようなものだったか理解することができた」という感想が聞かれました。

２月14日（土）は輿水達司先生による「鉱床学からちょっと離れて」というタイトルでお話をいただきました。氏は専門に携わっている富士山について詳しくお話ししてくださいました。特に富士山の噴火と東海地震に関連した内容に、緊張して聴講される姿が見られました。

昨年10月から行われてきました平成15年度公開講座ですが、この２月の講義をもって終了いたしました。『甲斐金山と鉱床学～山金・砂金・芝金を見極めた金山衆の世界～』というテーマのもと、各講師の先生方に御講義をいただき、また多くの皆様に御聴講いただくことができました。この公開講座は平成16年度も新たなテーマを設け、10月から開講予定ですので、引き続き多くの皆様の御聴講をお待ちしております。なお、公開講座の内容は記録集『金山史研究』として刊行いたしますのでこちらも御活用ください。

今年度公開講座を締めくくってくださった輿水先生

シンポジウム『生産遺跡から探る「モノづくり」の歴史』第１回 金山・銀山の技術　開催

２月29日（日）、帝京大学山梨文化財研究所で、『生産遺跡から探る「モノづくり」の歴史』金山・銀山の技術」と題したシンポジウムが開かれました。

考古学、金銀鉱山に携わる４人の講演者による特別講演と、事例報告を兼ねたパネルディスカッションなど１日かけたこのシンポジウムには多くの聴講者が集まり、会場はほぼ満席状態という盛況振りでした。

全国でも名だたる講師陣を招き開催されたこのシンポジウムでは４人の講師が基調講演と特別講演をしました。奈良文化財研究所の村上隆氏、九州大学名誉教授・井澤英二氏、山梨文化財研究所所長萩原三雄氏。井澤氏と萩原氏は当館での公開講座の講師も務めてくださっています。また当館の谷口一夫館長も講演者として、「湯之奥金山の調査研究」という演題でお話しされました。

この日、会場には聴講者に混じって全国の金銀鉱山関係者も多く、佐渡や石見、岩手など日本中からそうそうたる顔ぶれが一堂に会しました。シンポジウムの翌日、村上隆氏を始め20人弱の関係者が金山博物館を訪れました。館長の説明で館内見学した後、まだ体験したことがないという先生方は砂金採りも体験されました。

石見銀山は現在、世界遺産に暫定登録されており、本登録に向けてその活動を着実に進めていますが、私達も石見銀山の登録実現を第一に考えています。そして次に「東国の金山遺跡と黄金文化」の世界遺産登録運動の主旨も理解していただき、さらに、「東国の金山遺跡」の登録実現に協力していただきたい旨を伝えました。

村上先生始め各先生方からは協力を惜しまないというありがたいお言葉もいただきました。

信玄公祭り情報コーナーで鉱山の歴史紹介

４月12日は山梨の代表的な戦国武将・武田信玄の命日にあたります。山梨県内各地ではちょうど桃の花が咲き乱れるこの時期を中心に、信玄公の遺徳を偲ぶ様々な「信玄公祭り」が行われています。大和村・武田勝頼公祭り、石和・桃の花祭りなどもその一つで、この下部町でも毎年５月第３土・日曜日に「下部温泉信玄公かくし湯まつり」が開催されます。下部の温泉街を甲州騎馬隊が練り歩くこのお祭りは、県内で行われる信玄公ゆかりの祭りの最後ということで知られています。そしてこれらの信玄関連の祭りのオープニングとして開催されるのが県下最大の「甲府・信玄公祭り」です。

信玄公祭りは甲府駅前、舞鶴城公園、中央商店街を中心に前夜祭から始まり、翌日は甲州軍団が出陣しますが、今年は前夜祭を４月９日に、そして11日まで開催されます。騎馬隊の主役・武田信玄公役には今年は俳優・勝野洋さんが扮し、総勢1,600人で構成された騎馬部隊・甲州軍団が甲府平和通りを練り歩きます。

県民プラザ（旧西武）で「黄金の山波」を上映

このお祭りの関連イベントとして、3月7日～4月29日まで「文化と学習の横丁」というコーナーが甲府平和通り沿い県民情報プラザに設けられ、当館の映像シアター「黄金の山波」の上映や鉱山臼２点、金鉱石などが展示されていますので、お近くにおいでの際はちょっと立ち寄ってみてください。

㈱ダイアート三枝よりプラチナ鉱石寄贈

２月上旬、宝飾業界大手貴金属会社である（株）ダイアート三枝（三枝正彦社長）より、南アフリカ産のプラチナ鉱石（約１t）と九州・菱刈金山の金鉱石（約0.6 t）を、博物館活動に使っていただきたいと寄贈して頂きました。

寄贈のきっかけは、１月10日付の山梨日日新聞に掲載された『「黄金の国ジパング」を世界遺産登録』に、の記事を読み、この主旨に共感、一企業として、この運動にどの様な形で支援できるか考えた結果、とにかく支援する意志を伝えることが必要と判断され、同社所蔵の鉱石の寄贈になったものです。

本県は誰もが知るように水晶の研磨宝飾や貴金属製品の産地として有名ですが、歴史の中でも砂金に代わり、金鉱石から産金した初源的金山が甲斐金山という事で、金銀を扱う貴金属産地の山梨にとって、金を産出した東日本の各金山が、この様な形で「世界遺産」登録が実現すれば、世界から脚光を浴びることにつながり、「宝飾・貴金属のやまなし」の産地振興につながるもので、是非、実現して欲しいと三枝社長は述べています。なお、４月13日に、博物館において鉱石の寄贈式が行われます。

2004年（平成16年）1月10日 土曜日

下部・湯之奥金山 全国の遺跡とタイアップ

「日本の黄金世界遺産に」

広域登録へ転換

活動一本化めざす

国内の主要金山の歴史を一つの枠組みととらえ、世界遺産登録の運動を進めている甲斐黄金村湯之奥金山博物館。署名簿には県内外の3200人以上が名を連ねている

山梨日日新聞
平成16年１月10日付掲載記事

館からのお知らせ

博物館専用駐車場完成

１月下旬より工事中だった駐車場建設工事がこのほど完了いたしました。約２箇月間の工事期間中は御来館くださった皆様に何かと御不便をおかけいたしましたが、４月から御利用頂ける運びとなりました。

これまで、駐車場が離れているということで年配のお客様などから、もっと近くに駐車場があったらいいのにという御意見を多く頂いておりましたが、新駐車場（駐車可能台数29台、大型バス３台）は、御来館いただいたお客様に、より快適に御満足いただけるよう、博物館に隣接しており、雨の日の億劫な移動も大幅に解消され、御利用いただくお客様の利便性が図られるものと思います。

この駐車場は、当館営業時間内（夏時間：午前９時～午後６時まで、冬時間：午前９時～午後５時まで）完全時間制の博物館専用無料駐車場として御来館いただく皆様に御利用いただけるようになっております。

これを機にさらに一層、来館者の皆様にますますの御満足をいただけるよう、職員一同頑張って参ります。

なお、リバーサイドパーク駐車場も従来どおり御利用いただけます。

『金山史研究第６集』刊行準備中

現在、御講演いただいた講師の先生方の御協力をいただき、平成14年度公開講座記録集として『金山史研究第５集』の発刊準備を進めております。これまで第４集まで発刊しており、おかげさまで県内外の一般の方をはじめ、研究者の方々からも御好評をいただいております。

一般頒布は６月上旬を予定しておりますので、楽しみに待っていてください。

親子映画観賞会

今回で20回目となった親子映画観賞会。春休み映画会として３月24日（水）、午後１時から開催されました。今回上映したのは「スチュアート・リトル２」、「スパイダーマン」の２本。恒例の参加者の皆さんからのアンケートを見ると、もっと開催回数を増やして欲しいという要望も多くあり、この催しが定着してきたことをうかがわせます。新年度に入るにあたって、これまで通り皆が楽しめる作品を選定しつつ、寄せられた要望に応えられるように心がけながら、観賞会は続けて参ります。

平成16年度　友の会会員募集・更新のお知らせ

「博物館を通して学習する会」…それが湯之奥金山博物館友の会です。共に学び、自らの教養を高めると共に、利用者の立場から博物館活動に御協力いただきます。新年度に切り替わるとともに友の会も会員更新の時期を迎えました。また新規会員も募集いたします。

年会費：個人会員　大人（高校生以上）　1,000円　　小中学生　300円
家族会員　2,000円　　特別賛助会員　5,000円

入会されますと…

- 博物館常設展示・企画展示が無料で御覧いただけます。
- 博物館だより、友の会だより及び各種情報や行事案内が送付されます。
- 博物館刊行物が１割引で購入できます。
- 会員期限は平成16年４月～17年３月末日までとなります。

入会方法

博物館窓口で直接お申し込みいただけます。遠方の方は電話、ハガキ、メール、ファックスのいずれでも博物館に入会希望の御連絡をいただいた後、所定の郵便振替用紙をご本人宛てに御送付いたします。入金を確認し次第、会員登録し、会員カードを御送付いたします。

その他御不明な点は当館まで御連絡ください。

博物館日誌（平成16年１月～３月）

1月

1(木) 元旦
2(金) 仕事始め
7(水) 休館日
8(木) 管内小中学校始業式
10(土) 団子・お山飾り作り
14(水) 休館日
17(土) 第36回公開講座・五味篤氏
20(火) 博物館駐車場改修工事始まる
22(木) 第６回特別展開始
～２月13日まで
28(水) 休館日

2月

3(火) 節分・豆まき
4(水) 休館日
11(水) 建国記念の日開館
12(木) 休館日
13(金) 第６回特別展終了
14(土) 第37回公開講座・輿水達司氏
24(火) 多目的ホール貸館事業・ハブ博物館会議
25(水) 休館日
26(木) 甲府信玄公祭り資料貸出・打合せ
28(土) 九州大学名誉教授井澤先生来館
29(日) 金山銀山の技術シンポジウム・於帝京大学山梨文化財研究所

3月

1(月) シンポジウム講演者・参加者一行来館
3(水) 休館日・館内電気機器メンテナンス
7(日) 有料入館者12万人達成
10(水) 休館日
16(火) ダイアート三枝より鉱石寄贈
17(水) 休館日
18(木) 富山県魚津市教育委員会視察
22(月) NHKより取材協力依頼
24(水) 春休み親子映画観賞会
30(火) 平成15年度開館最終日。入館者が前年度を約一、三〇〇人上回る
31(水) 休館日

編集後記

春の代表的な花といえば、梅、桜、桃。桜も例年より随分早い開花宣言をしましたが、蓋を開けてみれば数日の違いで満開となり、桜をメインとした各地のイベントもなんとか開催出来たというニュースもいくつか耳にしました。イベントを主催する側の立場で心配してしまうのは、同業者の性でしょうか。

たくさんの花が見られるようになるこの季節辺りは淡桃色に包まれるような感じです。時には初夏のような陽気にもなりますが、何はともあれ暖かくなってくると気分もなんとなくウキウキするもの。約２箇月の駐車場工事も無事に完了しましたし、これからの行楽シーズンにどうぞ御利用ください。

そして新年度も企画展・特別展、各種行事を計画していますので、こちらも楽しみにしていてください。

博物館だより　第28号　平成16年３月31日
発行　〒409-2947 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
ＴＥＬ　0556（36）0015
ＦＡＸ　0556（36）0003
博物館ホームページアドレス http://www 2. town. shimobe. yamanashi. jp/kinzan/　博物館Ｅメールアドレス kinzan@town. shimobe. yamanashi. jp